



東京文化発信プロジェクト

東京から生まれる新しい文化の波

平成 22 年 10 月 18 日
東京文化発信プロジェクト室
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

【プレスリリース】

東京文化発信プロジェクト 10 月後半～11 月 開催プログラムのご案内

東京文化発信プロジェクトは、世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信、芸術文化を通じた子供たちの育成、多様な地域の文化拠点の形成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベント、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

年間を通じ様々なイベントを通して「東京ならではの芸術文化の創造と発信」を行っていますが、10月後半から11月に開催されるプログラムの中から、主要なイベントを4点、ご案内させていただきます。ご取材等、ご検討いただければ幸いです。

フェスティバル事業

■ トーキョー発・舞台芸術の祭典『フェスティバル/トーキョー10』

東京芸術劇場など池袋周辺エリアで 10/30 (土) より 30 日間にわたって開催！

日本を代表する国際的な舞台芸術祭としてスタートした「フェスティバル/トーキョー (F/T)」。第3回目となる『F/T10』が、10月30日にいよいよ開幕します。

今回のキャッチフレーズは「演劇を脱ぐ」。F/T は、演劇というメディアがますます複雑化するなかで、既存の手法を疑い、演劇の境界線を拡張しようとする取り組みを、過去の開催を通じて紹介してきました。今回はそれをさらに押し進め、演劇が「演劇」として認知されている前提条件を「脱いでみる」という試みです。

主催公演 16 演目、公募プログラム 8 演目、参加作品 3 演目の計 27 演目・213 公演が、全 30 日間にわたって開催されます。うち 9 作品が F/T が製作ないし共同製作の新作、11 作品が世界初演です。

山手線すべての駅に「避難所」を設定して都市の不可視なコミュニティと観客をつなぐ『完全避難マニュアル 東京版』(構成・演出：高山明)、池袋西口公園での実物大ボードゲーム演劇『パブリック・ドメイン』(構成・演出：ロジェ・ベルナット)など、最先端の舞台芸術が展開されます。

また、期間中の毎週末と祝日には、やなぎみわプロデュースの『カフェ・ロッテンマイヤー』が、東京芸術劇場前の F/T ステーションで営業。公募で集まった自称・おばあちゃんたちが、料理と給仕パフォーマンスでおもてなしします。その他、従来の演劇ファンにとどまらない幅広い層が参加できるライブパフォーマンスやポストパフォーマンス・トークなどの関連プログラムも充実させています。



『巨大なるブツパッハ村—ある永続のコロニー』
©Dorothea Wimmer

【開催概要】

会 期： 10 月 30 日 (土) ～11 月 28 日 (日)

開催場所： 東京芸術劇場 中ホール 小ホール、あうるすぽっと (豊島区舞台芸術交流センター)、にしすがも創造舎、シアターグリーン、自由学園明日館 ほか

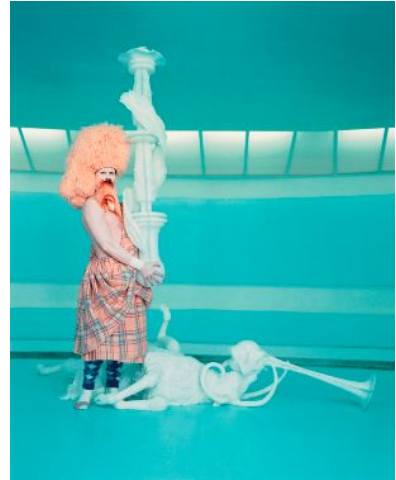
フェスティバル事業

■ 『東京アートミーティング トランスフォーメーション』 於: 東京都現代美術館 人類学者 中沢新一との共同企画で「変身・変容」を考える展覧会 10/29(金)より開催

「東京アートミーティング」とは、現代アートを中心に、デザイン、建築などの異なる表現ジャンル、およびその他の専門領域が会うことで新しいアートの可能性を提示する試みです。第1回目として、「トランスフォーメーション(変身・変容)」のテーマのもと、アートと人類学が会う展覧会を、10月29日より開催します。

古今東西、〈変身〉をテーマにしたイメージや芸術は多く作られてきました。現代はさらに、インターネットやグローバル経済、テクノロジーの発達によって、従来の「人間」という形がぶれ始めているといえます。本展では、動物や機械、想像上の生き物など、人とそうでないものとの間を横断する多様なイメージを、1980年代から現在にわたる15カ国21組のアーティスト作品を通して展開します。

人間と動物の関係を考える、人類学者・中沢新一との共同企画をはじめ、東京藝術大学とのコラボレーション、バールティ・ケールをはじめとするアジアの新しくダイナミックな表現、レディ・ガガにも影響を与えたマッシュュー・バーニーの代表作などを紹介。関連イベントとして、ヤン・フアーブルのパフォーマンスをはじめ、アーティスト・トークや映像上映なども実施します。



マッシュュー・バーニー 《CREMASTER 3: Five Points of Fellowship》2002 Collection of the Artist, Courtesy Gladstone Gallery, New York

【開催概要】

開催期間： 10月29日(金)～平成23年1月30日(日)
休館日： 月曜日 ただし1/3、10は開館、12/29～1/1、1/11は休館
会場： 東京都現代美術館 企画展示室1F、3F、アトリウム
開館時間： 10:00～18:00 (入場は閉館の30分前まで)
観覧料： 一般1300円(1040円)、大学・専門学校生・65歳以上1000円(800円)、
中高生650円(520円)、小学生以下無料 *()内は20名以上の団体料金

東京アートポイント計画

■ 『ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト』 「茶会」を切り口に秋の谷中で開催される参加型ワークショップ

下町情緒あふれる谷中エリアでの地域アートプロジェクト『ぐるぐるヤ→ミ→プロジェクト』。身体にわきおこる力を「ぐるぐる」、その力を外に向かって発散する力を「ヤ→ミ→」と名付けたもので、大学生や地域の団体によって運営されています。

11月、「茶会」を切り口に秋の谷中を満喫する、2つの参加型プログラムが開催されます。

ひとつは、全国各地で移動式屋台にて旅回りのお茶会を開催している「きむらとしろうじんじん」による「野点」。参加者にその場で素焼きの茶碗に絵付けしていただき、陶芸窯で40分ほど焼いてできあがったそのお茶碗で、茶がふるまわれます。一連のプロセスを経ながら、“その場ならではの”のやりとりや雰囲気や皆で楽しむワークショップです。



きむらとしろうじんじんの「野点」

もうひとつは、東京藝術大学などの学生が、「茶会」をテーマに、谷中の民家、路上、寺、商店などで、パフォーマンスで参加者をもてなす「谷中妄想ツアー！！茶会」。参加者は4人のグループに分かれ、スペシャルマップを読み解きながら指定された目的地に行き、そこでパフォーマンスを目撃していきます。最後に皆でお茶をいただき、ツアーで出会ったことから得た「妄想」を振り返るといふもの。

当プロジェクトは、市民や学生によるアートプロジェクトなどの運営を通して、地域に開かれた出会いの場を創り出すことを目的としています。今年は根津の一軒家に活動拠点「はっち」をオープンし、さまざまな立場の人々が日常的に集い、交流する場として機能しています。今回の2つのプログラムは、そのつながりを活かして開催されるものです。

【開催概要】

- 「野点」 日 時： 11月7日（日）、10日（水）、13日（土） 11：00頃～日暮れまで
場 所： 五重塔跡(谷中霊園内こどもの広場)
料金費： お茶碗作り 1個 1,500円（1日に35個まで）、お抹茶 300円
- 「谷中妄想ツアー！！茶会」
日 時： 11月7日（日）、13日（土） 14：30 集合
場 所： 谷中界限 *集合場所はK's green gallery
（クマイ商店内 台東区上野桜木2丁目13-3）
参加費： 1,000円

東京アートポイント計画

■『墨東まち見世 2010』 11/23(火・祝)まで 開催中

都市・東京でない、つくられた下町でもない「新しい東京のカタチ」をさぐるプロジェクト

墨東エリアに息づく生活や文化の特徴を生かしたアートプロジェクト『墨東まち見世 2010』が、10月2日から11月23日まで、曳舟、京島、東向島、八広、押上エリアを中心とする墨東エリアで開催中です。今年は、今年の第一回目の開催をきっかけに活動を始めた人々も加わり、さらに多様なアートプログラムが実現しました。

路地と園芸植物による独特な地域風景に着目した「第二回・京島路地園芸祭」、昭和のレシピを再現する「レトロクッキング 2010」など計20のネットワークプログラムや、初めて墨東エリアを訪れたアーティストが新しい視点でアート創作を行う「100日プロジェクト」などが展開されています。

アーティスト、研究者、地域に詳しい住民の方といった、さまざまな人々が個性あふれる視点で地域を紹介するまちあるきツアー「墨東まち見世さんぽ」を12コース設定。またレンタサイクルのサービスも実験的に導入。建設中の東京スカイツリー観光にやってきた人々も巻き込んで、地域の回遊性を高める試みも実施しています。



【開催概要】

- メイン会期： 10月2日（土）～11月23日（火・祝）
開催場所： 墨東エリア（主に曳舟、京島、東向島、八広、押上エリア）

<報道関係者からの問い合わせ先>

東京文化発信プロジェクト広報事務局

富樫／大原

電話：03-3818-2465 FAX:03-5689-0455 E-mail:tokyobunka@prininfo.co.jp